

各委員からの意見等の整理について

1. 関連施策の推進～特色ある学校づくり～について

- ・ 小中一貫教育の推進については、子どもの人数が今後も減少する見込みであることや、施設面の整備など物理的な要件、地域性、教員の配置などを考慮し、基本的に「義務教育学校」の類型・形態を目指すことで整理しています。
- ・ また、ふるさとキャリアプログラムの推進については、これまでの取り組みや在り方を語る会等での町民のみなさんの思いを踏まえて、今後も推進していくものとして整理しました。なお、各地域の独自性を尊重しつつ、学校と地域との双方向な活動を展開することで整理しています。

▼計画素案の関係ページ

Ⅱ. 関連施策の推進～特色ある学校づくり

1. 小中一貫教育の推進（2ページ）
2. ふるさとキャリアプログラムの推進（3ページ）
3. その他関連施策の推進（3ページ）

2. 学校数について

- ・ 子どもの人数が今後も減少する見込みの中、止むを得ず統廃合により学校規模の適正化を図る必要性は、全委員の共通理解であると考えております。
- ・ 小学校については3校を1校に統合し、適正化を図ることで整理しました。
- ・ また、小中学校の統合に対する考えは、「小中一貫教育の推進」（2ページ）、「学校校舎等」（7，8ページ）、「学校の位置」（9ページ）でそれぞれの考え方を整理しています。

▼計画素案の関係ページ

Ⅲ. 学校規模の適正化

1. 適正化に関わる考え方（4ページ）
2. 小学校の統合（適正化）（5ページ）

3. 校舎等の在り方について

- ・ “校舎・体育館いずれも新築”のほか”既存の校舎・体育館を増改築”の意見も多いですが、これは町財政や期間的なことを懸念しての回答であり、これらの課題がクリアできれば、これからの学習環境に対応できる新校舎等の建設が望ましいという意見が多くありました。
- ・ 本計画は子どもたちのためにあるべき適正配置の在り方を定めるものであるため、前述の件を踏まえて、理想的な校舎等の在り方を目指すことで整理しています。

▼計画素案の関係ページ

Ⅲ. 学校規模の適正化

4. 学校校舎等（7～8ページ）

4. 校舎の位置について

- ・ 子どもが集中する北西部地域（栗山小、栗山中敷地内を基本）を優先とし、小中の連携を図るため、可能な限り小学校と中学校を近接させることで整理しました。
- ・ これにより遠距離通学となる児童に対しては、現在、栗山中学校への通学で運行しているスクールバスと同様に対応し、通学手段を確保することで整理しました。
- ・ この場合、角田小と継立小が閉校することによる、それぞれの地域への影響が懸念されます。この点については、今後も、角田を中心とする中部地域、継立を中心とする南部地域の振興を図るため、閉校後の校舎の活用や、それぞれの地域の良さを全町的に共有できる仕組み（例えば、栗山小学校の児童が角田や継立の行事に参加できるようにする）などについて、適正配置の進行に併せて関係部署や関係機関などと連携・協議し、適切な対応・措置に努めることで整理しました。

▼計画素案の関係ページ

Ⅲ. 学校規模の適正化

5. 学校の位置（9ページ）
6. 通学手段の確保（10～11ページ）

Ⅳ. その他関係事項

1. 学校施設（閉校舎）の取扱い（12ページ）

5. 学校数を変える時期について

- ・ 準備が間に合うのであれば”少しでも早く”という意見が多いことや、令和 9 年度に継立小学校の新入生が 1 名になる見込みを踏まえ、現実的な最短期間として、**小学校は令和 9 年度の統合、小中一貫教育の導入は令和 9 年度から令和 12 年度を目指すことで整理**しました。
- ・ なお、校舎等については、現時点では新築や改修などの複数案が考えられますが、いずれにしても設計から工事完了までには 4～5 年の期間を要することから、先んじて小学校の統合を進めるスケジュールとして整理しています。

▼計画素案の関係ページ

V. 計画のスケジュール

1. スケジュールのおおよその目安（13 ページ）

6. その他の計画項目について

- ・ この項目に記載いただいたご意見等も踏まえて、計画素案を作成しています（学校の数や、学校の場所等について）。
- ・ また、委員の皆様かから頂いた意見は、語り合う会の意見等とともに、今後の検討・協議に反映します。

参考：各委員の意見等

1. 関連施策の推進～特色ある学校づくり～について

- ・ 今後の学校づくりにおいては、今までも栗山という地域性を活かした自然の中での体験、農作業などをしてきていますが、語り合う会でもそのような意見を聞きましたので、一年を通して体験する学びは続けるとよいと思います。伝統芸能も存続できるよう子ども達に知ってもらいたいです。
- ・ 生徒数の減少で小学校の統廃合は近い将来実行しなくてはならないと思います。そのために現時点での町民や保護者等に懇談会で説明に努め共通の理解を深めることが大切だと思いますし、今のところ、その様な活動を行っていると感じています。
- ・ ①基本的には、子供第一の考え
学校に通う子供が楽しい学校を目指す（不登校ゼロ）
- ・ ②ふるさとキャリアプログラムの推進について
まずは、子供達が自然を通し、ふれあい、多くの人たちの話を聞く力をつける
- ・ 小中一貫教育を進めていくためには、小中が分離しているより、同じ校舎で学ぶことが大切であり、効果が高いと考える。特に小学校が1校になるのであれば、同じメンバーがそのまま中学校に進学するので、別の校舎になっていることにあまり意味はない。
同じ校舎になることで、教員の数が増えるとともに、保護者の人数が増えることになり、大人が目が多くなることはメリットである。
- ・ ふるさとキャリア教育について
現在でもふるさと自然教育が行われているが、語弊を恐れずに言うと少し形骸化してきている気がする。せっかくの素晴らしい取り組みなのに、子どもたちにどのくらい響いているのか疑問に思うことがある。従来のカリキュラムに加え、新しい内容（面白い取り組みをしている町内の人）も検討する余地があるのではないか。
- ・ 小中一貫教育は推進していき、問題を都度改善していければと思う。
栗山をふるさとと思えられる教育はぜひこのまま続けていき、もし、小中一貫校になれば、さらに、色々な体験をさせてあげられればと思います。

- ・ 1. 小中一貫について
 - メリット（理想）
 - ・ 6歳～15歳が同じ校舎で過ごすことで、別々だった時と比べて良い効果はあると思う（思いやり、学芸会が盛大！イベントも一点集中で豪快に）。
 - デメリット（現実）
 - ・ 女子もいじめ、男子は暴力系のいじめなど不安（小3の娘が言っています）
 - ・ 何か特色がないと（今までないから）他の町からの移住がしにくいかも
- 2. 私の場合ですが、小（栗山）、中～高・大（町外）、就職（町外）、子育て（栗山）←この辺りが落ち着くなと思います。でも、働く場所が微妙、、、栗山にもっと色々な企業があればなあ（これはまた別の話ですが）
- ・ 「地域学校協働による栗山型教育」の創造。町民すべてがかかわり合い、栗山のすべてが教材へと変わることをスローガンとして幼保小中校高専とつながる一貫性がある地域力の活用指標を作成していく必要がある。また、関係各所との連携を強化しながら「栗山学」ふるさとキャリアハローワークといった町独自の教育活動の創設と具現化に取り組む必要がある。と書かれています。

全町民による挨拶のできる励行運動を徹底してはどうか。

学校でも児童・生徒間の挨拶によって、いじめや不登校も減少する。大人社会でも町内会や企業、施設、団体など栗山町民は老いも若きもみんな明るいまちづくりのために、努力されているその姿を示していくこと「地域学校協働による栗山型教育」に繋がるのではないかと感じております。
- ・ 人口が先細りしていくのは止められない。その中で、いかに教育を充実させていくか、何が、どれが正解なのか誰にもわからない所もあるが、やはり過疎地域として特色を出す必要がある。

P T Aの意見を尊重していただきたい。
- ・ 現在町内全小学校でキャリアプログラム推進なども行っていて特色ある学校教育推進を行っていると考えます。

栗山町7次計画内に各種教育施設等が連携した教育プログラム推進で小中学校への円滑な接続のための連携プログラム推進とはどのような取り組み及びプログラムを行っているのか？

2. 学校数について

②小学校を統合

- ・ 人口減少、少子化を考えると小学校は1つに統合するのが良いと思います。

②小学校を統合

- ・ 生徒数も少なくなるので、小学校を統合

②小学校を統合

- ・ 角田・継立の両小学校は急激に児童数が減少しており、どちらもこの先増加する見込みはないので、早い段階で小学校三校は統合すべきであるとする。中学校は既に一校であるために、中学校入学に伴い、いきなり大人数の中学校に入学する生徒の心配も少なくなると考える。

②小学校を統合

- ・ 1. 児童生徒数は、現在の小学校3校に集約される直前（平成8年度、1,378人）から現在（令和6年度、665人）までに713人減少48%。
2. 今後も児童生徒数は減少する見込みです（令和6年度→令和12年度196人減）
3. 令和8年度に1クラスになる学年（5年生）が発生し適正規模が維持できなくなる見込みです。
4. 角田小学校は既に複式学級が発生しており、児童数・級数共に同様の傾向が続く見込みです。
5. 令和9年度の1年生は、1名になる見込み。令和9年度から、全学年で複式学級になる見込み。令和9年度の全校児童数は22名になる見込みです。
6. 令和10年度から小規模基準の最低数の6学級になる見込みです。
「少子高齢化の中で生き延びる自治体としてやむを得ない方策か」

②小学校を統合

- ・ 第7次総合計画にも記載があると思いますが計画期間中の目標人口が令和10年度推計で1万人を切る見込みとなっていると思います。全国的にも人口減少及び高齢化は歯止めが利かない状態になっています。当然ながら学校教育及び学校数も従来通りの教育状態維持は厳しくなるのは自然な摂理に近いと考えます。現状としまして小学校統合が妥当かと推察いたします。

②小学校を統合

- ・ 取りあえず小学校の統合。現状維持は、児童が少なくて団体行事ができない。

②小学校を統合→（将来的に）③小中学校を統合

- ・ 小学校を統合することは、小規模にも生徒一人ひとりに目がとどき、寄り添的に児童の指導ができる良い点もありますが、統合による集団生活の中で様々

な考え方にふれ体験し合い、協力し、切磋琢磨することを通じて能力を伸ばし可能性や選択肢が増えると考えます。将来的には小中統合も有り。

②小学校を統合（その次に）③小中学校を統合

- ・ 角田小、継立小は少なすぎるのでやはり統合を！その後、小中学校統合賛成です。いろいろ問題ありと思いますが、親としては長い目で自分の子と関わる子供たちのことも見続けることができるので安心感あるなどと思います。統合と一緒に話になりませんが、栗中の学力レベル気になります。北大くらい目指せるのでしょうか・・・。

②小学校を統合

- ・ （理由記載なし）

③小中学校を統合

- ・ 将来的には小中学校を統合。現実的には小学校をまず統合し、それから中学校を統合するのが良いのではないかと思います。

③小中学校を統合

- ・ 友達との交流。児童の減少により交流が少なくなってしまうため、コミュニケーションの機会も減少する。統合によってその機会とバリエーションが増え、人間性向上につながると考えられる。児童を孤立させない。
- ・ 統合によって教職員の負担軽減に繋がる。教職員の人数を確保できる。

③小中学校を統合

- ・ （理由記載なし）

③小中学校を統合

- ・ 小中学校統合は一度に進めるのではなく、第1は小学校の統合（3校→1校）を行い、所在地は継立小にして欲しい。中学校は栗山中1校なので栗山で良い。統廃合は2段階方式で実施してもらいたい。

③小中学校を統合

- ・ 将来を考えると、小中統合の一択ではないかと思う。子供の送迎も楽になるし、スクールバスも充実すると思う。ただ、部活動については熟考しなくては体育館、グラウンドにせよ毎日使えなくてはならないと思う。

③小中学校を統合

- ・ 小学校を統合した場合でも、中学校の人数が少なくなっていくことはわかっていることである。一時的な対応をするのではなく、10年後、20年後を見据えて教育の在り方を考えていけば、新校舎を早めに作り、義務教育学校として9年間を多くの大人の目で見えていくことが将来的には得策である。（小学校だけを統合しても、数年後にまた義務教育学校をどうするかを検討が始まると予想される）

3. 校舎等の在り方について

①校舎・体育館いずれも新築

- ・ もし、統合を選択するなら、夢をもって学べる環境でスタートをきることが子どもたちにとっては良いと考えるので、マイナスイメージのつかない新築とする方がよい。その方が地域・保護者の応援は得やすい。

①校舎・体育館いずれも新築

- ・ 校舎、体育館いずれも新築が望ましい
- ・ 気持ちよくスタートする
- ・ 旧校舎もいずれは壊さなくてはならない

① 校舎・体育館いずれも新築

- ・ 小中一貫校という考え方もあるが、栗山中学校は4つの小中学校の中では一番新しくまだまだ使用可能である。しかし、現中学校に小学校も入るというのは狭すぎる。また、中学校は所在地が栗山市街地から離れすぎている。場所的には、栗山小学校が最適である。が、現校舎は古すぎ、以前は生徒数も多く教室が多く、現在は使用していない教室が多く存在する。理想は、現栗山小学校グラウンドに新校舎・体育館を新築し、建設後現校舎を解体しグラウンドにすることである。建設中は、栗夢広場を使用すればよい。また、現在各小学校にあるプールも廃止し、現栗小体育館の場所に、町民温水プールを建設するとスポーツセンターと一体感ができ、良いと考える。

①校舎・体育館いずれも新築 or②既存の校舎・体育館を増改築

- ・ ①は可能なのか疑問（予算と場所）。でも、小中をまとめるなら新築が良いですね！

①校舎・体育館いずれも新築

- ・ （理由記載なし）

①校舎・体育館いずれも新築

- ・ （理由記載なし）

②既存の校舎・体育館を増改築

- ・ 校舎、体育館の新築が一番良いと思いますが、時間的、金銭的等の問題を考えると、既存の校舎、体育館を利用していくのが良いと思います。

②既存の校舎・体育館を増改築

- ・ 理想は新築だが、今後、栗山町の人口増減に希望を持つならば今すぐに新校舎を建設するのではなく、現在ある校舎を活用し様子を見た方が良いのではないか。

②既存の校舎・体育館を増改築

- ・ 新築が可能ならもちろんだが、国や道の補助金がなければかなり厳しいと

思う。

- ・ 町の財政のことはわからないが、余るほどお金があるとは思えないし、この先、人口減ならなおさら税金は減り続ける。

②既存の校舎・体育館を増改築

- ・ 生徒数がそれほど多くなる訳でもない。今、現在の校舎で良いと思う。
 - トイレなどは、洋式便器にすべて変える
 - 更衣室などを6学年全て設ける

②既存の校舎・体育館を増改築

- ・ (理由記載なし)

②既存の校舎・体育館を増改築

- ・ (理由記載なし)

③その他

- ・ これからは少子化も進むので、将来は小中校の統合も考えられるので、その時に新築を考える

③その他

- ・ 新築であるのにこしたことはないが、教育環境面が問題なければコスト面を考えての判断でよいかと思う

③その他

- ・ まだ考える余地があるのではないか。地震のことを考えると耐震強度を上げる必要があり、予算、学校の場所等をふまえてから新築を考えれば良いのではないか。

4. 校舎の位置について

①栗山小学校敷地内

- ・ 角田小学校、継立小学校が栗山小学校に移すのが良いと思います。

①栗山小学校敷地内

- ・ 国道234号を横断しない校舎の場所が良いのでは。
- ・ 新校舎なら栗夢広場だと思うが、予算があるので栗小しかないのではないか。

①栗山小学校敷地内

- ・ (理由記載なし)

①栗山小学校敷地内

- ・ 多くの子供は、徒歩で通える。また、近くに病院、スポーツセンターなど公共施設があるため。

①栗山小学校敷地内

- ・ (理由記載なし)

①栗山小学校敷地内

- ・ 栗小の校舎が全児童分の教室を確保できると思いますが、南部の子供たちの通学が問題。

①栗山小学校敷地内

- ・ 新校舎建設の時間的(場所的)余裕がないのでは？
- ・ 栗山小学校校舎を使用しながら、例えばグラウンドに新校舎を建設する(または増築する)。
- ・ (栗山小学校は当初児童数1,000人規模であった)S55.1,200人。

①栗山小学校敷地内

- ・ 栗山小学校区の生徒数が一番多いので当然と考える。

①栗山小学校敷地内

- ・ まずは栗山小学校に小学校等統合。というのも小学校と中学校を今ある敷地内にまとめることができるのかな？と疑問です。
- ・ あと、今の中学校の場所は、小学生が通学するには危ない(国道234号が)、でも校舎が新しいので移動しちゃうのはもったいないね、という声を聴きました(栗中卒業のママから)。
- ・ ⑤はどこが良いのか、、思い浮かびません。
- ・ 場所は栗小から変えないで、順々と新校舎に！というのはできないでしょうか。古い学校ってトイレが汚くて、トイレ臭くて嫌です。

①栗山小学校敷地内

- ・ (理由記載なし)

①栗山小学校敷地内

- ・ 栗山小学校は児童数が多いので

②角田小学校敷地内

- ・ (理由記載なし)

④栗山中学校敷地内

- ・ 人口減少は、今後顕著に表れていると考える。
- ・ 子供の数も当然減少する。そうした時に異学年での学生同士の交流や学びが必要と考える。
- ・ できるだけ近くにあった方が将来的なものにも対応しやすいのではないかと。
 - ・ 災害にも対応できる校舎、立地。
 - ・ 学校施設、校舎の老朽化、使用年数を考慮して中学校敷地内。
 - ・ 南部地域の立地は現実的に考えにくい。

② 栗山中学校敷地内

- ・ 駅周辺の人口はそれほど増える要素はないと考える。駅や商店街に近いという生活圏での利便性はあるものの、学校で学ぶ子供たちにとっては駅のそばに学校があることがそれほどの利便性を発揮するものではない。それよりも、朝日や中里地区の住宅街に子どもを持つ世帯が多いことを考えると、栗山中学校敷地内またはその付近で学べる環境がよいと考える。それにより、介護福祉学校がさらに生きるのではないかと。
- ・ また、角田・継立地区の子供たちにとってもアクセスしやすくなるものと考えられる。

⑤その他

- ・ 将来的には小中学校とも統合されるのは止むを得ないと思う。理想は小学校と中学校を2ブロックに分けて小学校は継立、中学校を栗山に置いて欲しい。
- ・ 何もかも全て栗山にもって行くのでは南部地区が増々過疎となり廃れるばかりである。南部地区の繁栄の一助になれば良い。

5. 学校数を変える時期について

①令和9年度

- ・ 角田、継立の児童数を見ても、できるだけ早い方が良いのではと思います。

①令和9年度

- ・ 目まぐるしく変わる中で、早く統合した方が良い。

①令和9年度

- ・ 統合となるのであれば、先延ばしにしたところで、何か変わるものではないことから、判断はできる限り早くした方がよい。延ばせば延ばすほど、子供のデメリットが増すばかりである。ただし、新校舎のめどが立つなら、その時期に合わせるのがよい。

①令和9年度

- ・ 統合するなら早い方が良いのではないかと思います

①令和9年度

- ・ 一刻も早くやるべき。

①令和9年度

- ・ 少しでも早い統合が良いと考える。

①令和9年度

- ・ 今、検討しているのだから、決まったら早い方が良い。言う人が言えば早くなるならその方向で早めて欲しい。

①令和9年度

- ・ 1年でも早くするべき。継立小では運動会にしても団体競技できない。(2人で徒競走をしたり)

①令和9年度

- ・ いつまでもただならぬ会議をしても本質的には進まないのでは。令和9年度が最速ならそれに向かっていくべきだと思う。

①令和9年度

- ・ (理由記載なし)

②令和10年度

- ・ 最速の令和9年は現実的に難しいかなと。完全なる体制には時間が必要で・・・(※知識不足により回答できません)

②令和10年度

- ・ (理由記載なし)

②令和10年度

- ・ (理由記載なし)

②令和10年度

- ・ (理由記載なし)

③令和12年度以降

- ・ (理由記載なし)

6. その他の計画項目について

- ・ 学校に求めることは、学力の向上はもとより人間性。人、社会、自然に順応できる心豊かな人の育成、成長に役立つ教育環境を作ることと思います。
栗山町は里山学習や地域と学校のつながりなど、そういったことの実現に積極的に取り組んでいると思っています。学校配置が大きく変わっても、今後もその姿勢、取り組みの充実を目指すことを求めます。
- ・ 私は、小・中と栗山でしたが、会議の中で継立の方々の話を聞くと色々あったのだろうと思った。
昔は、栗山小学校、角田小学校、御園小学校、円山小学校、滝下小学校、南学田小学校、杵臼小学校、桜山小学校、雨煙別小学校、緑丘小学校、日出小学校があり、統合で今は3校になっている。
統合について、あまり難しく考えることはないと思う。子供達にとっては大きなことかもしれないが、クラス替えだと思えば良いこと。
だが、統合により、いじめ・不登校が出る恐れがあるのではないかと心配です。
- ・ どのような判断をしても、一定の反対は起きるものである。個人的な意見、一部地域的な意見、現状だけで考え、先を見ていないと感じる意見もあるので、全体的なメリット、将来的な展望を優先させて決定すべき。
今回の場合で、一番に考えなければならないのは、子供たちの行く末であり、今の子供たちだけではなく、これから生まれてくる子供たちのことを真剣に話し合うことである。そして、10年後、20年後の栗山町の状況を見据えたときに今何をどう判断するべきかを町民みんなが自分事として考えられるように進めなければならない。
最近の一部の意見により、物事が進まない傾向に社会が動いている。それではこれからの変革の社会では通用しない。栗山町が取り残されるだけだと思う。
また、統合問題では、小規模校の学習のメリット（目が行き届く）がよくあげられるが、全学級複式ではどういう学校教育が行われることになるかを知り、そのことについて考える場が必要である。集団活動が行えない、行事が行えない、教員の数が減少するなど、なかなか町民に伝わらないような現状をしっかりと伝えることも必要である。”
- ・ 私の考える理想は、現栗山小学校の場所に小中学校を集めることだと考える。ただ、前項で述べたとおり、栗山中学校が新しいため現実的ではない。しかしながら、現中学校の場所はやはり望ましい場所ではないと考える。雨煙別・杵臼・北学田からのことを考えると地理的には良いのかもしれない

が中心はやはり栗山市街地である。栗山駅から中学校までは大人でも真剣に歩いても35分はかかる。

前項で述べたとおり、予算を確保できるのであれば、校舎・体育館新築、プールも統合し、温水プール化がいいなと私は考える。無理だとは思いますが……。余談だが、数年前に少し話があった木質バイオマス小型発電所（機）があると、非常電源として活用でき、木質チップを燃焼して発電するために、冷却用水が温水となる副産物を得られる為に、温水プールにも活用できると仕事柄思っていた。

- ・ 第1回目については、栗小、角小、継小→栗小校舎統合 賛成です。場所は栗小が良いと思います。

中学校との統合は、現実問題どんなことが問題となりうるのか、、、あまりイメージができないので有識者の方たちに教えていただきたい。

（今思い浮かぶ点として、スマホ、ゲームについて低中学年でやらせたくないところ。大きい子が近くにいると影響を受けそう）

↓

その後、小中統合も良いなと思うようになりました。

- ・ 現役のPTAを主体に皆さんで意見を出し合い、より良い環境をつくりましょう。町のためでも我々のためでもなく、すべては子供のためですから。
- ・ ①栗山型教育の推進とは具体的な内容もしくはビジョンなどはあるのでしょうか？

②「ふるさとキャリアプログラム」とは？

この町に残って頂き、人口流出、生産人口年齢指数の水準を下げないかが重要かと思います。

まちづくりの基本理念として個性的で効果的な政策展開を両立した持続可能なまちづくりの推進は次代生きる子どもたちの未来にはとても重要な理念かと考えます。

ぜひ、その理念のもと、みんなが元気なまち「ふるさと栗山」を考えていきたいと思います。

- ・ 今後も児童数の減少が考えられることから、小中学校の入学生も減少することが予想される。そこで予想されるのが小中学校の統合計画である。

だが、地域にとって学校の存在は重要な要素であり、仮にその地域から学校が無くなることは大損失である。

例えば、お祭りの神輿や行列ができなくなるなるし、運動会での見物や応援も、その楽しみが失われるし地域と学校その存在によって、成り立っている一面もあると思う。

現状維持が難しいのであれば、それに変わる方法を考えるべきではないの

か？（今の私には思いつかないが）

確かに、今後、小中学校統合が見えなくもないが、それに代わる地域と学校の在り方を話し合う場が必要であると考えられる。

- ・ 本町における義務教育制度について先代の方々の並々ならぬご苦労は、大変なものであったと感じられます（別紙「本町が教育に取り組んだ背景と大意」について資料参照）。大正9年の人口は15,406人。昭和38年の人口のピークは24,572人。国のエネルギー政策は石炭から石油へと変化して、小中学校の児童・生徒数も著しく減少する中で、義務教育学校がどうあるべきかは悩ましい限りであります。

さて、民間組織「人口戦略会議」による「消滅可能性自治体」の発表は、道内の人口減少に歯止めがかからず、将来的には東京圏でも人口が維持できない厳しい現状を浮き彫りにした。人口減少社会にどう向き合うべきか。

「人口戦略会議」は全国2,975の市町村の40%超に当たる744自治体、北海道では65%超の117市町村が2050年に「消滅する可能性がある」との報告書を発表されました。地方の人口流出に歯止めをかけ、若年人口が集中している都市部の出席率を高める対策が急務とのことでした。

本町の教育に取り組む背景と大意

明治21年宮城県角田藩士泉麟太郎、張南塾起業組合と設立ア、川右岸(現角田)に24名が入植。

明治24年、学校(角田教授場)の公設認可、子弟約50名

〃 30年、角田小学校栗山分校認可開校

大正9年、才1回国勢調査 人口、15,406人

昭和23年、村立栗山高等女学校を北海道に移管、道立栗山高等学校となる。

〃 24年、町政施行、栗山町と改称。

〃 38年、町役場新庁舎完成、角田が栗山へ移転、人口のピーク 24,572人

〃 44年、統合栗山中学校新校舎完成。

〃 48年、栗山高等学校新校舎完成。

〃 52年、栗山小学校新校舎完成。

〃 54年、御園小学校が南学田小学校に統合。

〃 56年、南学田、日出、田山小学校が統合し、継立小学校として新設開校。

〃 57年、緑丘小学校が雨煙別小学校と統合、釜下小学校が継立小学校に統合。

〃 59年、継立中学校改築。

〃 61年、角田小学校増改築。

〃 62年、櫻山小学校開校。

〃 63年、町立北海道介護福祉学校開校。

平成元年、北海道介護福祉学校新校舎完成。

9年、杵臼小学校開校。

10年、栗山中学校新校舎完成。

〃 雨煙別小学校開校、栗山小学校開校100周年

15年、栗山高等学校新校舎完成。

25年、継立中学校開校。(栗山中学校に統合)

26年、小学校で土曜授業が始まる。